

氏名(本籍)	加藤 慎吾(静岡県)
学位の種類	博士(鍼灸学)
学位記番号	鍼博甲第66号
学位授与の日付	平成28年 3月15日
学位授与の要件	大学院学則第34条第1項および学位規程第5条第1項該当
学位論文題目	視覚性動揺病に対する鍼通電刺激の効果 ー刺激部位の違いによる検討ー
論文審査委員	(主査) 北小路 博司 (副査) 角谷 英治 (副査) 石崎 直人

論文内容の要旨

【目的】視覚性動揺病を誘発した際には嘔気・嘔吐と共に各種自律機能の変化が引き起こされ、内関穴(PC6)への鍼刺激により症状の改善が得られる事が既に報告されている。しかし、消化器愁訴に対する鍼刺激の効果は他の経穴においても有効性が報告されている。そこで本実験では胃電図、視覚的評価スケール(VAS)、乗り物酔いの自覚症状スコア(SSMS スコア)を指標とし、内関穴(PC6)・足三里穴(ST36)・天枢穴(ST25)に鍼刺激を行った際の視覚性動揺病に対する効果を比較した。

【方法】被験者を無刺激群(n=10)、内関穴刺激群(n=10)、足三里穴刺激群(n=10)、天枢穴刺激群(n=10)に振り分け、optokinetic drumを用い視覚性動揺病を誘発した。drum回転前15分、回転中15分、回転後15分の計45分間胃電図の記録を行い、その前後で嘔気症状をVAS及びSSMSを用いて評価した。各経穴への鍼通電刺激は15分間のdrum回転中に行った。

【結果】無刺激群及び天枢穴刺激群はdrum rotationにより胃電図の正常波の有意な増加(p<0.01)及び強い嘔気の出現が認められた。しかし、内関穴刺激群・足三里穴刺激群でそのような変化は認められず、motion sicknessに伴う胃電図のdysrhythmia及び嘔気出現とその強さの程度の抑制が認められた。

【考察】motion sicknessに伴う嘔気及び胃電図のdysrhythmiaは内関穴及び足三里穴への鍼通電で抑制された。このことは、内関穴のみに特異的な作用があるわけではなく、足三里穴への鍼通電も効果的であることが明らかとなった。

論文審査の結果の要旨

加藤慎吾氏は、視覚性動揺病を誘発し、胃電図を指標に足三里穴 (ST36) 刺激の消化器機能におよぼす影響について検討した。

【目的】視覚性動揺病を誘発した際には嘔気・嘔吐と共に各種自律機能の変化が引き起こされ、内関穴 (PC6) への鍼刺激により症状の改善が得られる事が既に報告されている。しかし、消化器愁訴に対する鍼刺激の効果は他の経穴においても有効性が報告されている。そこで本実験では胃電図、視覚的評価スケール (VAS)、乗り物酔いの自覚症状スコア (SSMS スコア) を指標とし、内関穴 (PC6)・足三里穴 (ST36)・天枢穴 (ST25) に鍼刺激を行った際の視覚性動揺病に対する効果を比較した。

【方法】被験者を無刺激群 (n=10)、内関穴刺激群 (n=10)、足三里穴刺激群 (n=10)、天枢穴刺激群 (n=10) に振り分け、optokinetic drum を用い、視覚性動揺病を誘発した。drum 回転前 15 分、回転中 15 分、回転後 15 分の計 45 分間胃電図の記録を行い、その前後で嘔気症状を VAS 及び SSMS を用いて評価した。各経穴への鍼通電刺激は 15 分間の drum 回転中に行った。

【結果】無刺激群及び天枢穴刺激群は drum rotation により胃電図の正常波の有意な増加 ($p < 0.01$) 及び強い嘔気の出現が認められた。しかし、内関穴刺激群・足三里穴刺激群でそのような変化は認められず、motion sickness に伴う胃電図の dysrhythmia 及び嘔気出現とその強さの程度の抑制が認められた。

【考察】motion sickness に伴う嘔気及び胃電図の dysrhythmia は内関穴及び足三里穴への鍼通電で抑制された。このことは、内関穴のみに特異的な作用があるわけではなく、足三里穴への鍼通電も効果的であることが明らかとなった。

これらの成果は、経穴刺激が生体への影響の一端を明らかにし、鍼灸学にとって意義のあるものである。

以上により、本論文は、本学大学院博士 (鍼灸学) の学位を授与するに値するものと認める。

(主論文公表誌)

明治国際医療大学誌 第 14 号 2016 年